

## ご挨拶

東日本大震災のがれき処理と建設資材不足の解消を目的として、本コンソーシアムの前身である「震災がれきと産業副産物のアロケーション最適化コンソーシアム」は立ち上がり、これらの一連の技術ノウハウを「技術情報集」、「活動報告集」等としてまとめ上げ、被災地の復興を技術的視点から支援してまいりました。その後 2017 年 6 月に「資源循環コンソーシアム」と名称を改め、「資源循環型社会の構築」へ軸足を置き、新しい東北の創生への支援を行うべく活動しております。

本「技術資料集」は循環資源活用検討部会の改良土 WG および環境安全性 WG において、主に東北地方で発生する未利用資源について、現状や利用拡大に向けての留意するポイントをまとめております。

第 1 章では、改良土 WG において取り組んだアンケート調査の結果をまとめています。ここでは石炭灰、各種スラグ類など東北地方で産出される未利用あるいは使用量の少ない資源で、土木材料として価値の高いものについて、主に地盤改良材料への適用について調査しております。

次に参考資料-1 として会員社が有するリサイクル保有技術を個別にまとめ、最後に参考資料-2 として関連のカタログや東北地方に限らず全国的に行われている注目すべき関連材料についてのガイドライン等を載せています。

第 2 章では、環境安全性 WG において取組まれた「環境基準と安全性に関するマニュアル」について「地盤工学会」、「国立環境研究所」および「日本鉱業協会」等により作成されたガイドラインを基にまとめています。

未利用資源を有効利用するためには環境安全性の担保が不可欠ですが、厳しく規制することは資源の有効利用の足枷となることもあります。東日本大震災以降、利用有姿や利用形態を勘案した利用方法が重要視され、資源循環の観点からは追い風となっているものの、その考え方や手法が十分に浸透しているとは言い難く、教宣が必要であると思われます。つきましては、是非ともご一読いただき、資源循環の促進にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本書の作成にあたりましては、幹事をお務めいただいた西松建設（株）平野孝行氏ならびに（公財）宮城県環境事業公社 佐々木源氏に多大なご尽力をいただきました。ここに記してお礼申し上げます。

今後とも、会員各位ならびに行政各機関のご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2020 年 6 月

資源循環コンソーシアム・代表  
宮城大学・教授 北辻 政文